

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- ・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの人格を尊重し生命と人権を守る学校
- ・知識・技能及び思考力・判断力・表現力の向上、学びに向かう力の醸成により、校訓の「明るく・正しく・たくましい」児童生徒を育む学校
- ・本校がこれまでに培ってきた特別支援教育の歴史と伝統に裏付けされたスキルを継承し、時代のニーズに応えられる学校

## 2 中期的目標

- 1 生徒一人ひとりの特性に応じた指導・支援の充実
  - (1) 普通課程、生活課程に在籍する生徒の障がい特性をふまえた教育課程の編成及び効果的で適切な運用とクラス、学年を中心とした学校生活の充実
    - ア 担任力をさらに強化し、複数担任制による教員相互の連携を密にし、クラス担任が主力となって生活支援や指導、進路支援や指導をする。
    - イ キャリア発達支援の観点を示した表を活用した授業を充実する。
    - ウ ユニバーサルデザインを活用した学校、教室環境の整備をすすめる。またLGBTにも配慮した教育の推進をはかる。
    - エ 学年団（普通課程、生活課程）の運営の充実のため、各課程の学年主任、首席の連絡会議を設ける。
  - (2) 堺支援独自のキャリア教育の推進
    - ア 生徒・保護者の立場にたつて進路支援を充実させる。
    - イ 地域関連機関と協力、協働して支援体制をつくる。
    - ウ 「働くこと」を意識した実践的な体験学習を実施する。
- 2 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり
  - (1) いじめゼロへ向けての生徒指導體制の構築
    - ア いじめ防止に向け、生徒の状況把握につとめ、学年をこえての連携体制をつくる。また養護教諭と教員の連携を密にする。
    - イ 生徒指導部とPTAの連携でいじめ防止活動、スマホ安全利用など、生徒が安心して学校生活を送る取組みをすすめる。
  - (2) 公共心を育て、個々の可能性を引きだし育てる活動の充実
    - ア 自分が学ぶ場所は自分たちできれいに保つ気持ちを養うために、期末、学年末に校内清掃を実施する。
    - イ 朝のあいさつ運動を継続し、生徒会選挙を通じて政治的素養を養う。
  - (3) 学校の危機管理体制の充実
    - ア 災害訓練を徹底し、生徒の保護者引き渡し訓練などよりいっそう実践的な訓練を行うとともに、危機管理体制を強固なものとする。
- 3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成
  - (1) 地域と連携した教育の推進と堺の歴史や文化に親しむ
    - ア 「さかいホテルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、ビオトープ等を活用した新たな環境教育に取り組む。
    - イ 堺市立障害者スポーツセンターと連携し、教職員の交流、教員の障害者スポーツの専門性向上、スポーツセンター施設活用などを積極的に推進し、障がい者スポーツの理解と振興を図る。
  - (2) 次世代を担う教員の育成
    - ア 本校の状況や地域性等をふまえ、バディ制度を活用した、実践的な堺支援版「初任者研修」を充実させる。
  - (3) 学校からの積極的な情報発信
    - ア 児童生徒や支援学校への理解・支援が広がるよう、学校ホームページ等の充実を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者・児童生徒・教職員を対象に実施した。</p> <p>○ 保護者の提出率は3学部全体で57.2%。低下傾向が続いていたが、この3年間は51.5%、56.1%と徐々に上がっている。今後はPTA便り等で呼びかけ、6割以上の提出をめざしたい。すべての項目において、肯定的評価が80点以上と高い評価をいただいた。80点前半であった「ホームページの充実」「不審者対応」については次年度の課題としたい。</p> <p>○ 児童生徒の提出率は67.2%と今までで最も高かった。全体的に肯定的評価が上がっているが、「担任以外に相談できる先生がいる」の否定的項目が21.6%と高めだった。相談体制の周知とともに、質問項目を分かりやすくする必要がある。</p> <p>○ 教職員は全員提出。ほとんどの項目が肯定的評価70%以上であったが、「適正・能力に応じた校内人事・校務分担」「長期的見通しにたった施設・設備の拡充」の項目が、否定的評価30%以上だった。校長・准校長がリーダーシップを発揮し、学校運営を計画的に推進していきたい。</p>	<p>&lt;第1回（6月26日）&gt;</p> <p>○ 今年度の取組みについて（学校経営計画より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新任研修でバディ制を取り入れるのは、人材育成として有効である。</li> <li>・ スポーツ活動について、他機関との連携や校内での情報共有を深め、より活発に行ってほしい。</li> <li>・ 委員より個別の教育支援計画と個別の指導計画の違いについて質問があった。より活用しやすくするために、次年度に向けて様式を整えているところであることを報告した。</li> </ul> <p>○ 授業見学。ICT 機器を効果的に使用している、発達段階や障がいの特性を踏まえている等、肯定的な意見をいただいた。プレハブ校舎の室温管理等、学習環境を懸念する意見も出された。</p> <p>&lt;第2回（11月25日）&gt;</p> <p>○ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の改訂様式について説明した。ICF 観点の有効性、効果的な保護者懇談会の持ち方等について意見が出された。</p> <p>○ いじめアンケート結果を報告し、了解を得た。</p> <p>○ 高等部の清掃・園芸・縫製・視線入力装置を活用した授業を見学。ルールやポイントを押さえた指導や手を使う活動が高評価だった。</p> <p>&lt;第3回（2月7日）&gt;</p> <p>○ 学校教育自己診断の結果を報告した。ホームページの更新や前期後期の2期制、課題設定ソフトなどに肯定的な意見が出された。</p> <p>○ 学校経営計画について、地域連携の一つとして以前行っていた緑化センターの花壇整備を復活させるのはどうかとの提案があった。</p> <p>○ 令和元年度学校経営計画の評価と令和2年度学校経営計画の承認を得た。</p>

## 府立堺支援学校（高等部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりの特性に応じた指導・支援の充実	<p>(1) 生徒の障がい特性をふまえたクラス、学年を軸とした学校生活の充実</p> <p>(2) 堺支援独自のキャリア教育の推進</p> <p>(3) 教員の教材教具の使用法の合理化</p>	<p>(1) ア 担任集団力、学年集団力の充実 イ 視覚支援を活用した教育環境整備を充実させる。 ウ 普通課程と生活課程の指導体制の連携を図る。</p> <p>(2) ア 「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」の栽培品種を増やし、購買意欲を増すような工夫を加え堺支援の職業(園芸)の特産品にする。 また、自分たちで作る喜びを体験することや、職業の学習を中心に校外のアンテナショップに出店し、販売することで就労意欲を高める。 イ 本人や保護者の寄り添った進路指導の充実を図る。</p> <p>(3) 生徒の学びを充実させるため、教具、支援教材の共有化をすすめる。</p>	<p>(1) ア 各クラスで生徒の状況把握の徹底や情報共有のため、毎日担任連絡会を行うとともに、学年主任は毎日各クラスの状況を収集して把握する。 教育自己診断・保護者用アンケートにおいて、「学校では教職員が協力しあって子どもの指導や学校運営にあっている」の肯定率を90%以上にする。 (H30年度90%、H29年度89%) イ 各クラスで生徒の特性に応じた視覚支援をクラスで3つ以上行う。 (H30年度は2つ以上) ウ 担当する課程を入れ替える教職員を各学年で3名以上とする。また、両課程の授業をそれぞれの教職員が担当できるように、学年で工夫し、授業担当者を決める。</p> <p>(2) ア 「田辺大根」などを栽培し、野菜特売で地域の方々に販売する。 また堺東商店街での「ガシ横マーケット」に年2回以上出店する。老人施設などでの販売を年2回以上実施する。 Gコースの生徒が、老人施設等での実習を1人2日以上実施する。 イ 教育自己診断・保護者用アンケートにおいて、「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率を90%以上にする。 (H30年度90%、H29年度80%)</p> <p>(3) 教科ごとに教材教具やプリント類の整理を行い、保管場所を確保し、誰でも使用できるようにすることで業務の効率化を図り、働き方改革に繋げる。</p>	<p>(1) ア 各クラスの連絡会は100%毎日行い、情報共有することができた。また、課程毎の連絡会もほぼ毎日実施し、情報共有に努め、連携を取って生徒指導に生かすことができた。アンケートの結果、肯定率は96%であった。(◎) イ 各クラスの生徒の特性に応じて3つ以上の視覚支援を行い、生徒が見通しをもって取り組める工夫を行った。(○) ウ 全ての学年で、両課程の教職員を各教科において3名以上の入れ替えを行い、授業を担当することができた。また、半数以上の教職員が両課程の授業を担当することができた。(○)</p> <p>(2) ア 職業コースの生徒は、「ガシ横マーケット」において年2回出店し、老人施設や地域自治会等での販売を年3回実施した。1人2回以上は販売の経験することができた。(○) イ アンケートの結果、肯定率は90%であった。(○)</p> <p>(3) 共通に使用できる教材(活用できる書籍やワークブック等)用の棚を職員室に設置し、効率的に使用することができた。(○)</p>
2 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり	<p>(1) いじめゼロへ向けての生徒指導体制の構築</p> <p>(2) 公共心を育て、個々の可能性を引きだし育てる活動の充実</p> <p>(3) 学校の危機管理体制の充実</p>	<p>(1) ア①生徒・保護者からの情報を得る。 ②生徒指導部を中心として、生徒の状況の把握など校内各部署の連携を積極的にすすめ、組織として事案に対応していく。 イ PTAとの連携を密にし、学校と家庭で生徒を見守るネットワークづくりを推進することで、学校全体で生徒の安全・安心を守る。</p> <p>(2) ア 定期的に校内清掃を実施することで、自分たちが学ぶ場所は自分たちできれいに保つ気持ちを養う。 イ 生徒会活動の活性化を図る。 ①生徒会を中心とした朝のあいさつ運動を継続・充実させる。 ②生徒会選挙を通じて政治的素養を養う。 ③生徒会として自主的な活動を実施する。</p> <p>(3) ア 実際の訓練を行い、生徒、教職員、保護者のすべての防災意識を高め、危機管理体制を強固なものとする。</p>	<p>(1) ア①毎学期に生徒・保護者に「いじめ」アンケートを実施し、生徒間でいじめ等がないかを把握し、必要に応じ生徒指導等を行い、いじめと認定する事案を0件とする。 ②生徒指導部、養護教諭、部主事の連絡会議を月1回程度行い、生徒の実態を把握し、特別指導委員会やいじめ対策委員会に繋げる。 イ PTA役員会等で学校の状況等の説明を密に行い、保護者との情報共有を図る。また、教育自己診断・保護者用アンケートにおいて「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率を92%以上にする。(H30年度92%、H29年度82%)</p> <p>(2) ア 期末、学年末に校内清掃を実施する。また、PTAと一緒に校内清掃を年2回以上実施する。 イ①あいさつ運動を継続することで、自主的にあいさつする生徒や場に応じたあいさつができる生徒を増やす。 ②堺市選挙管理委員会から投票用の器材を借りて、本校の生徒会役員選挙を実施し、選挙への意識を高める。また、堺市選挙管理委員会の関係者からの選挙について生徒向け講演を実施する。 ③生徒会役員が中心になって楽しい学校づくりに向け、新しい活動を実施する。</p> <p>(3) ア①災害時の緊急引き渡し訓練を年1回実施し、訓練への保護者の参加率を増加させる。(H30年度30%) ②高等部で年間1回以上は、防災センターでの校外学習を実施する。</p>	<p>(1) ア①アンケートを実施した。日々の生徒指導や保護者連絡等において、早期に状況を把握するなど、いじめを未然防止することで認定事案を0件とすることができた。(○) ②定例の会議としては行っていないが、適宜(週3回以上)部主事と生徒指導部、養護教諭の情報交換を行うことができた。また、必要に応じて特別指導委員会を実施し、指導に繋いだ。今年度は緊急のいじめ対策委員会は開催していない。(○) イ アンケートの結果、肯定率は93%であった。(○)</p> <p>(2) ア PTA校内清掃を年2回実施することができた。(○) イ①あいさつ運動を前後期生徒会において、週3回継続的に行うことができた。また、現場実習で生徒が自主的にあいさつできたとの評価もあった。(○) ②生徒会役員選挙において、堺市選挙管理委員会から投票箱などを借受け実際の選挙に近づけて実施することができた。選挙への意識を高めて、投票への手順を学ぶことができた。堺市選挙管理委員会の講演は実施できなかった。(△) ③</p> <p>(3) ア①2月2日に緊急引き渡し訓練を実施し保護者の参加率は、28%であった。(△) ②2年生の宿泊学習、3年生の秋の校外学習で防災センターの見学を行った。(◎)</p>

## 府立堺支援学校（高等部）

<p>3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成</p>	<p>(1) 地域と連携した教育の推進を図る</p> <p>(2) 次世代を担う教員の育成</p> <p>(3) 学校からの積極的な情報発信</p>	<p>(1) ア 「さかいホテルプロジェクト」への参画</p> <p>イ 仁徳天皇陵古墳清掃活動への参加</p> <p>ウ①堺市立障害者スポーツセンター及び大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ）と組織的に連携し、相互の教職員の交流を深める。 ②障がい者スポーツを体験することで理解を深め、生涯スポーツに繋げる。</p> <p>(2) ア バディ制度を活用し、実践的な初任者研の充実を図る。</p> <p>(3) ア ブログ等での情報発信の充実を図る。 イ 保護者配付プリントの見やすさやわかりやすさを向上させる。</p>	<p>(1) ア 「ホテル観賞会」への児童生徒や保護者の参加者数を 50 名以上とする。(H30 年度参加者数 40 名) また、カワニナの養殖に継続して取り組む。</p> <p>イ 年 2 回の清掃活動への児童生徒・保護者・教職員の参加者数を昨年度の 10% 増とする。(H30 年度参加者 70 名)</p> <p>ウ①准校長、首席、体育科教員とそれぞれのセンターの職員からなる連携協議会において、連携研修等を計画し、それぞれ年 3 回以上の研修等を実施する。 ②「ボッチャ」の教員向けの研修を行い、授業に取り入れることで、高等部の生徒への周知を図る。また、スポーツセンター及びファインプラザの指導員を招致する取組みを実施する。</p> <p>(2) ア 教育自己診断・教職員用アンケートにおいて、「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。」の肯定率を 80% 以上にする (H30 年度 73%、H29 年度 76%)</p> <p>(3) ア ブログの内容を充実させ、年間 45 回以上更新する。 保護者アンケートの「ホームページは学校の状況をよく伝えている」の肯定率を 90% 以上にする。(H30 年度 82%、H29 年度 81%) イ 保護者配付プリントは、視覚支援を積極的に取り入れる。また、難しい用語には解説を加えるなど工夫をする。</p>	<p>(1) ア 「ホテル観賞会」への参加者は 100 名。ホテル観賞などを通じて自然学習や環境教育に取り組むことができている。また、カワニナの養殖には機器の更新が必要である。(◎)</p> <p>イ 年 2 回の清掃活動への参加者数は 30 名であった。(1 回目は 30 名、2 回目は中止) また、「仁徳皇陵をまもり隊」による仁徳天皇陵世界遺産登録を祝う提灯行列には 80 名の参加があった。(○)</p> <p>ウ①連携研修を計画し、年 3 回実施できた。センターで 1 回、施設見学とボッチャの研修を行った。学校では、プール指導と心肺蘇生法の研修をそれぞれ 1 回ずつ行った。(○) ②教職員へのボッチャ研修を元に、2 学期に授業に取り入れることができた。また、センター職員による中学部・高等部の生徒対象のボッチャ指導を行った。(○)</p> <p>(2) ア アンケートの結果、肯定率は 80% であった。(○)</p> <p>(3) ア ブログでの情報発信は、各学部の行事等の後に 50 回以上更新できた。アンケートの結果、肯定率は 81% であった。(△) イ 保護者への配付プリントは、見てわかりやすくする工夫はできた。逐一の解説やルビなどはまだ十分ではない。(△)</p>
---	--	--	---	--